

# 「目をむけるべきこと」

～結果に目を向けるのは危ない危ない～

Ⅱ コリント 4 : 15 ~ 18

ある人と神様が会話しました。ある人は尋ねました。「神様にとって 10 万年はどれくらいの長さですか？」すると神様は「1 日のようなもの」と答えられました。次にある人はこう尋ねました。「神様にとって 1 億円はどのようなものですか？」すると神様は「1 円のようなもの」と答えられました。これを聞いてある人は欲がわいて『それなら今度から神様に求めるときは 1 円をくださいと言おう』と思いました。そして神様に言いました。「神様、私に 1 円ください！！」すると神様はこう答えました。「いいでしょう。では 1 日待ちなさい」・・・これは、ある人が欲をもって多くを求めたら、その人がこの世では叶えられない時間の果てに与えると神様が答えられたという笑い話です。ではあなたはどのようにか？ 私たちもこの人のように目の前にある答えと結果に目を向けて欲に走ってしまう人生を送っていないでしょうか？もしそのような人生を送っているなら、今日、本当に大事なものを、答えを下さる方に目を向けることができるように、みことばから学んでいきましょう。例えば私たちが目にする TV の CM。これは私たちの記憶に問いかけ、そこから私たちの内にある欲に訴えかけてきます。私たちはこの欲にハマったら問題だと分かっているけれど、いつも欲が心の中にごめいてしまいます。そんな私たちに聖書は「見えないものに目を留める」ことの大切さを語っています。聖歌でも「♪見ゆるところによらずして信仰によって歩むべし～」と、目に見えないものでなく見えないものにこそ心を留めなさいと語られています。以前より、私たちにあって欲は本来良いもの。私たちがこの地を従え、地を満たすせと云われた神様の約束を実行するには必要なものと語られています。しかしなぜ欲することがいけないと言われるようになるのかというと、『欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。(ヤコブ 1:15)』とあるからです。あなたは欲を制していますか？それとも制せられていますか？欲に制せられると、あなたは自分の問題点がわかっているも見ることができなくなり、そこから逃げる方法を選んでしまうようになります。欲しいと思うとそれが欲しくてたまらなくなり、日常の不足に目が向くようになり自分を不幸に思うようになってしまいます。このように悪魔は日々焦りを与え欲が制せないように語り掛け失敗させようとします。そんな欲に負けないためには、私たちの内側にある願いが何か大事になってきます。私たちがひとつのことをするときたくさんの人が関わり、そんなあなたを神様は見守ってください。ですから、欲に負けて大切なものを一瞬で失ってしまわないように、次のことを実践していきましょう。**1 欲を使う** (箴言 23:1-5) 欲は使うものであって、使われてはいけません。使いこなさなければいけません。トルストイの話で王様と農夫の話があります。あるとき王様に「一日歩けるだけの土地をあげる」と言われ農夫が、土地がたくさん欲しいがために、水も飲まず休みもせずただひたすら走り続け、その結果途中で倒れ死んでしまうという話です。このように欲は自分を見えなくさせます。この農夫は欲にかられて全てを失いました。しかし私たちがこういうことをよくやってしまいます。欲で大切なものに目を向けられず、見るべきものでないところに目が向いてそれを大切だと思ってしまうのです。しかし私たちはたとえそれを手に入れたとしてもそれでは満たされません。物質には限界があり、本当に欲しいものはお金では変えないからです。ですから私たちは何かを欲するとき、「なんのために必要なのか」を忘れてはいけません。聖書の中でイエス様は 38 回のたとえ話のうち、16 回物質とお金の話をされました。確かに豊かになることは神様のみこころです。しかし、もし私

たちのお金持ちになりたい理由がただ富を得たいからというだけであるなら、神様はこの願いを叶えられません。金持ちが神の国に入るよりは、らくだか蝸の穴を通るほうがもっとやさしいというみことばのとおり、欲によって本来の目的を見失っているからです。十戒でも最初に「わたしのほかにほかの神々があってはならない」こと、最後に「欲しがってはならない」ことを語っていますが、これは同じ欲について語っています。私たちが欲によって怒ったり嫉妬したりして失敗するのは、正しい目的がないからなのです。ですから、あなたがなんのために生きているかを見失わないために欲に使われるのではなく制して使っていかななくてはなりません。**2 備えよ！！** (創 41:33-37) あなたの願いを完成させるためにはどうしたらいいでしょうか。願いは結果ではなく目的に向かうためにするものであり、何のためにするのか分かっていれば備えることができます。女の人が十月十日の間、子どもをおなかに宿しているのはなぜでしょうか。この間に人は生みの苦しみを味わいます。しかし、その後新しい生命の誕生の喜びを味わうことになります。それは今あなたが経験している仕事や与えられていること全てにおいてそうです。ひとつのものを生み出すには備えが必要と神様は語られています。あなたの願いもそうであり、その願いが大きければ大きいほど、与えられている使命が大きければ大きいほど、あなたの人生が大事であればあるほど、今ある患難は重荷とはならない、将来与えられる栄光や希望に比べれば取るに足りないものだと聖書は教えています。神様は私たちが欲しい答えをすぐには与えられないことがあります。その時痛みの中を通ることもあります。だからこそ備えが必要。また、願いが叶えられたときが肝心です。もし苦勞がないと人はその恵みをいっぺんに食べてしまうからです。ですから普段から棚からぼた餅な信仰でなく、神様からその思いをしっかり受け取っていきましょう。**3 持てない物ではなく持てる者に目を！！** (ルカ 9:23-25) 世の中は親の通った苦勞を子にさせないために与えようとするのがよくあります。しかし、自分の持っていない物を人は与えることができません。ですから、持っているものをさも持っているようにするのはなく、あなたが持っているものに目を向けましょう。子はあなたをみて育ちます。周りを見ると私たちはたくさんの子を任されています。そのとき、Presentsではなく presence (神の臨在)、人と神との関係を大事にしていきましょう。人に物をあげるのではなく、あなたに価値がある。あなたの持っている物、あなたの存在が周りを豊かにするのです。いい事をしていふつもりが気分によってズレて本末転倒のことをしていませんか？常識やルールによって縛られていませんか？人を縛っていませんか？大切なことはひとつなのに、大義名分のためそれを忘れていませんか。あの人のせい・・・をやめなければいけません。私たちは「～しなければならぬ」が強いと大事なことを見失い、その人にただ物を提供するだけになって、その人の存在を忘れ、コミュニケーションをとれなくなってしまいます。神様の臨在を大切に、結果に目を向けるのではなく、結果を与えてくださる方に眼痰☹️しましょう。もしあなたがなにか欲していて神様が与えてくださるのは、目的がきちんと分かってそれを正しく管理できるようになったときです。神様はそれができるようにしてくださる方です。ですから何が大事なのか、神様に願い求めましょう。物質ではなくまことのいのちを得ていきましょう。そしてあなたの存在、あなたがいる意味をしっかり果たし、目に見えないものに目を留めていきましょう。

(要約者:平澤 瞳)